

発行日：令和8年9月11日

集団への参加が難しい児童生徒 との関係のつくり方

集団での参加が難しい子どもへどのような支援をしているでしょうか。発達特性や心理的な要因など子どもによって理由は様々で、複数の要因が重なっている場合もあります。

現代、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で共働き世帯が増え、親子でのコミュニケーションの時間の減少や地域のつながりの希薄化、スマートフォンやゲームの普及などから、他者との関わりが減っていることも集団での学習に苦手さを抱える背景の1つになっているかもしれません。

そのため今号では、『集団への参加が難しい』をテーマに開催した「令和8年度北見支援学校第2回特別支援教育研修会」の内容について、情報の共有・紹介をいたします。

子どもの困り感を見付けよう！

集団の学習に苦手さを抱える子どもにはどのような困り感があるでしょうか。例えば、発達の特性から周りの音や情報が気になり先生の話に集中できないために、何をしたらいいかわからない子どももいるかもしれません。集団の中では先生の指示を聞いたり、周囲の動きを見て自分の行動を考えたりするなど複数の処理を行う必要があります。「聞いてない」と思われがちですが、実は情報を処理しきれていない状態になっていることもあるかもしれません。また、強い緊張や失敗することを恐れることにより集団で学習することに苦手さを抱える子どももいるかもしれません。そんな子どもには失敗しないためにどのような支援があるとよいのか考える必要があります。まずは集団の学習に参加できない背景を考え、成功体験を積み重ねていく支援をしていくことが大切です。

- 先生の話していることが分からないよ…
- 何をしたらいいんだろう…
- また失敗したらどうしよう…
- みんなの前で話すの緊張するよ…

- どうしてみんなと一緒に勉強しなきゃいけないの…
- 教室がうるさいよ…



不安に感じていることを言葉で伝えられる子どももいれば伝えられない子どももいます。不安と感じている気持ちに寄り添い集団での学習が苦手な理由を子どもと一緒に考えてみましょう！言葉で伝わらないときには、視覚的な情報を提示し、分かりやすくしたり、感覚過敏により集団での学習に苦手さがある場合はイヤーマフを使ったりするなど子どもの困り感に合った支援を考えていきましょう！

【子どもを取り巻く環境】

①子どもの育つ環境について

【子どもの育ちについて】

○幼児の育ちの課題

→ ・ 基本的な生活習慣や態度が身に付いていない。

・ **他者との関りが苦手。**

・ 自制心や耐性、規範意識が十分育っていない。

・ 運動能力の低下。

・ 学習に集中できない。 など、

【環境の変化 地域社会の教育力低下】

○少子化、核家族化の進行により、子ども同士が
集団で互いに協力し合い、遊ぶ機会の減少。

○都市化や情報化の進行によって、自然や広場などの
遊び場の減少。

○テレビゲームやインターネットなどの室内遊びが増加。

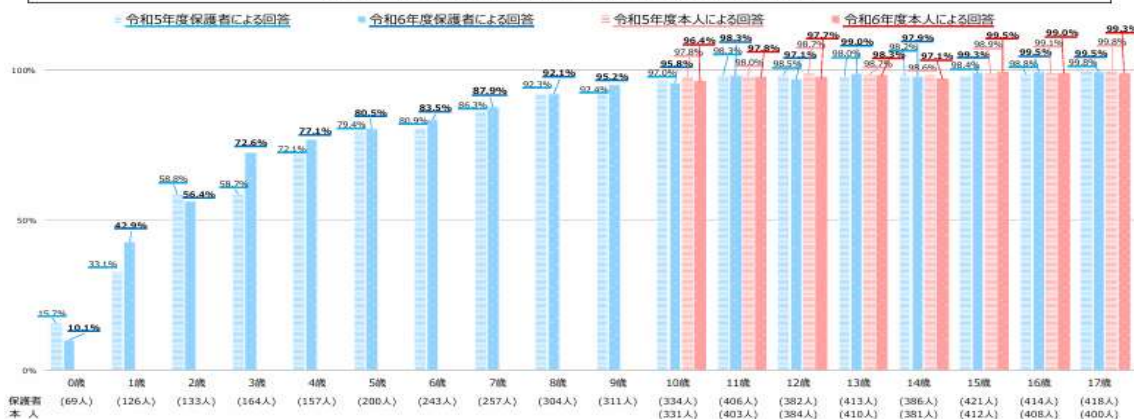
→ **偏った体験を余儀なくされている。**

概要 3 年齢別のインターネットの利用状況 - 1 (インターネット利用率)

回答した青少年全員及び保護者全員、低年齢層の子供の保護者全員をベースに集計

- 年齢が上がるとともにインターネットの利用率も高くなる傾向にあり、3歳で約7割、5歳で約8割となる。
- 8歳以上は9割以上がインターネットを利用しており、15歳以上は約99%がインターネットを利用している。
- 本人(10歳以上)による回答と保護者による回答では、認識に大きな差はない。

インターネット利用率(年齢別・令和5年度から令和6年度)



(注1) 「インターネット利用率」は回答した青少年全員及び保護者全員、低年齢層の子供の保護者全員をベースに集計。

(注2) 「令和5年度」の本人による回答数は以下のとおり。10歳(363人)、11歳(358人)、12歳(392人)、13歳(387人)、14歳(435人)、15歳(446人)、16歳(468人)、17歳(430人)。
「令和5年度」の保護者による回答数は以下のとおり。0歳(89人)、1歳(127人)、2歳(165人)、3歳(196人)、4歳(190人)、5歳(215人)、6歳(251人)、7歳(285人)、8歳(323人)、9歳(316人)、10歳(361人)、11歳(363人)、12歳(394人)、13歳(399人)、14歳(435人)、15歳(446人)、16歳(483人)、17歳(441人)。

※ (人) の数字は回答者数を示す。(青少年 Q1-1、青少年の保護者 Q1-1、低年齢層の子供の保護者 Q1-1)



現代、スマートフォンやゲーム機などの電子機器の普及により、子どもたちが生活する上で欠かせない道具となっています。スマートフォンやゲーム機に触れていないと不安に感じる「ネット依存」が、社会的な課題となっています。「令和6年度青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果」によると、年齢が上がるとつれてインターネットの利用率が高くなる傾向があるという結果がでています。3歳では約7割、5歳では約8割、8歳以上では9割以上がインターネットを利用しています。低年齢から長時間使用することにより、ネット依存となる児童生徒も増えています。WHO(世界保健機関)によると、ゲーム障害は①ゲームの時間や頻度などを自分でコントロールできない②日常生活や日々の活動よりもゲームを優先してしまう③家庭、学校、職場などの日常生活、人間関係、健康状態に問題が起きてもゲームをやめられないの症状が12か月以上続く場合としています。(短期間で特徴的な症状となる方もいるため、診断に必要な期間は短縮することもあります。)

ネット依存の症状により学習に集中しづらくなったり、人とのコミュニケーションに苦手さを抱え友達との関わりがうまくいかなかったりするなど集団で学習することに苦手さを抱える原因の一つとなっています。

電子機器の普及をはじめとした様々な要因により、生活の在り方は変化し続けています。

【視覚支援の活用】

言葉だけで内容を理解できる子どももいれば、言葉だけでは理解が難しい子どもたちもいます。そんな子どもたちに行っている支援の一つに視覚支援があります。視覚支援とは、言葉や文字だけの説明では理解が難しい子のために写真やイラスト等を使って見える化する支援のことです。人間は情報収集の8割を視覚から得ていると言われています。文字や絵などの視覚情報は、その場に残り続けるため、本人が自分のペースで何度も見返して理解し、行動をサポートする効果があります。一方で、視覚支援が大切だと思うばかりに、様々な内容を視覚化しすぎてしまうこともあるため、情報を整理・調整して提示することが大切です。

～視覚支援の紹介～

視覚支援の紹介



- ・文字や写真で提示
- ・終わった学習カードは外すことで残りの学習が分かる。

視覚支援の紹介



- ・洗い場の正面に貼ることで、確認しながら手洗いをすることが出来ます。一人で手洗いができるようになった子どももいます！

視覚支援の紹介



- ・字読みの見通しをもつことに課題のある子に効果的です。
- ・まずはカードの意味が分かるよう一つ一つ確認しながら進めていくことが大切。
- ・終わったらカードをフィニッシュボックスへ入れる。

視覚支援の紹介



- ・歯磨きの手順書です。磨く場所を提示することで、磨く場所が分かります。タイマーと一緒に使うとどれくらい磨くかが分かります！

スモールステップで

- ・目標を高くしすぎず、一つ一つを着実に、成功体験を積み重ねていくことが大切。



視覚支援で大切なことは、子どもたちが一人で行えるようになるための支援を考えることです。始めは支援者と一緒に取り組み、徐々に支援を減らしていきましょう。私たち支援者はつい先走って言葉掛けをしてしまいがちですが、時には待つことも大切です。子ども自身が自ら考え時間をかけながらも一人でできることがあるかもしれません。待つことも大切にしながら自立に向けた支援をしていきましょう！

【実態把握に基づく目標設定】

子どもの目標をどのように設定していますか？目標設定をする上で聞き取りや観察による実態把握が必要です。子どもの課題となる部分に注目されることが多くありますが、子どもの得意なこと、強みを見付ける視点を大切に目標設定をしていきましょう。日々の指導ではスモールステップを心掛け、子ども自身ができたことに喜びを感じながら成功体験を積み、自信をもって目標を達成できるよう支援していくことが大切です。

日々の指導では、『スモールステップ』を心掛ける
高すぎる目標は、本人にとっても、指導者（支援者）にとっても苦しくなります。

→大きな目標を達成するためには、刻んで目標を設定する。

スモールステップの効果とメリット
スモールステップの効果は、大きく3つ挙げられます。
1. 子どもも支援者も達成しやすく、自己肯定感を得やすい！
2. どこでつまづいているのかが分かりやすい！
3. 教えるポイントが明確で、教えやすい！

引用：スタジオオモロ「スモールステップとは？段階的に学ぶメリットと実践的活用」
<https://studiosora.jp/column/1664/>

適切な目標設定のために、実態把握を行いましょう！

きめ細やかな実態把握のために
～冰山モデルの紹介～

※「個人の要因」と「環境要因」で分けて考えることが多いです。

今回の研修のテーマの場合…

状態像

環境要因

個人要因

集団に参加することが難しい

友達の機嫌、態度

ルール、きまり

場の雰囲気

大勢の集団が怖い

慣れていない

イメージしていた活動ではない

集中して取り組める時間が短い

活動の意味が分かっていない

もっと取り組みたいことがある

成功体験の少なさ (ネガティブ体験の積み重ね)

上記の内容はあくまで例です。
実態把握を深めて、背景・要因を探りましょう！

今回の研修のテーマの場合…

実態	目標	アプローチ
活動の意味がわかっていない	学習内容を理解して、落ちついて活動に	教師と1対1の活動から始め、少しずつグループの人数を増やしていく。
集中して取り組める時間が短い	教師と一緒に、○○の活動に部分的に参加することが出来る。	教室や学校生活のあらゆる場面で、たくさんの言葉に触れる。
もっと取り組みたいことがある	気持ちに折り合いをつけて活動に参加することが出来る。	活動に取り組めた際には大いに称賛する。本人が取り組みたい活動や楽しみを保障する。

集中できる時間が長くなったり、体力がついたりするのは、一日一日の積み重ねです。じっくりと向き合っていきましょう。

本人の強みを活かす！

児童の願い
児童が進めたいのは

マズローは人間が行動を起こす理由（動機）として大きく5つの段階があると考えました。1つは「安全欲求」です。これは「何が足りない」という不足状況を充足させることで、行動を起こすやる気の基盤になるというもので、主に4つの欲求から構成されます。例えば「安全な場所に住みたい（安全欲求）」、「家族・友人と親しくありたい（親和欲求）」、「仲間と自分の実力を認められたい（承認欲求）」などです。

もう1つは「成長欲求」です。これは不足欲求である4つの欲求が満たされると、人が行動を起こす動機は「自分の能力を活かしてさらに成長したい（自己実現欲求）」まで達するというものです。

2. 欲求の5段階とは？

人間の欲求は、下記の欲求が満たされると上へ上へと上がっていく。

生理的欲求 生存の持つ能力や可能性を最大限に発揮したい

安全欲求 自分が危険から身を守る環境を築きたい（不安を解消したい）

社会的欲求 愛情・信頼をつくりたい（仲間とつながりたい）

承認欲求 社会的に認められたい、成長的に伸びていきたい、高い達成感を得たい

自己実現欲求 生存の持つ能力を最大限に発揮したい、自分の能力を活かしてさらに成長したい、新しいことに挑戦したい

マズローの5段階欲求とは、人間の欲求を5つの層に分類し、人はそれらを下位から順に満たしていくことで、最終的に自己実現へと向かって成長していくという考え方です。目標を考えたときに今見ている子どもがどの層にいるのか考えた上で段階的に満たしていくよう指導・支援をしていくことが大切です。

第4回 特別支援教育研修会の御案内

1月12日に、『令和8年度 北見支援学校 第4回 特別支援教育研修会』を行います。集合形式での実施を検討しております。研修内容等の詳細に関しましては決まり次第、本校 HP にて掲載させていただきますのでご確認ください。ご不明点等ございましたら北見支援学校相談支援部（TEL：0157-61-0071 メールアドレス：kitamishien-z1@hokkaido-c.ed.jp）までお願いいたします。